

(医療提供体制)

- ・本県では、新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れる病床について、これまで170床を確保してきたが、4月の感染拡大の局面においては、3週連続で50人以上（最大で週70人）の患者を受け入れ、一時的に逼迫した状況を迎えたことから、医療機関と増床について協議を続け、現在、233床を確保
- ・このうち、人工呼吸器、ECMOによる管理を行う重症病床として、30床を確保（これまで最大で8床使用）
- ・さらに、無症状や軽症で状態が安定している方を受け入れる宿泊施設として、当面170床（最大340床）を確保
- ・現状では、一時の逼迫した状況を脱するとともに、今後想定される第2波、第3波による感染拡大の局面にも対応できる医療提供体制の確保を図った
- ・また、新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れる医療機関では、過酷な環境のもと、昼夜を問わず、感染者の治療や感染拡大の防止を図るため、献身的に業務を行っていただいている
- ・こうした医療機関では、専用病床の確保に伴い、一般の入院病床が減少したことや予定手術を延期したこと、さらには、外来患者の受け入れを制限せざるを得なかったことなどによる、経営の悪化が課題
- ・新型コロナウイルスに積極的に対応すればするほど利益が低下し、経営が立ち行かなくなるとすれば、この先、第2波、第3波がきたときに適切に対応できなくなるおそれがあることはもとより、地域の医療崩壊にもつながりかねない
- ・こうしたことから、新型コロナウイルス感染症への医療提供にしっかりと対応する医療機関の取り組みを評価し、経営面での支援を行うことで、医療提供体制の確保を図っていただきたい
- ・そのほか、現場における医療資機材の確保のほか、医療従事者向けの宿泊施設の確保といった医療従事者の就労環境の改善等に対する支援にも、引き続き、対応していただきたい

(検査体制)

- ・ 県の検査体制の強化及び県内の大学、民間検査機関にもご協力をいただき、PCR検査可能件数は増加
- ・ 本県では、相談から、受診、検査までを、県医師会と共同で作成したフローチャートに基づき対応
- ・ こうしたことにより、基本的には、これまで滞ることなく検査を実施
- ・ 医療機関や医師会の協力のもと、安全で、効率的な検体採取ができるドライブスルー方式を、空調設備を備えた屋内施設で実施する「いしかわPCR検体採取センター（仮称）」を開設し、次なる感染拡大が発生した場合にもしっかりと対応できる体制を整えることとしている
- ・ 一方で、4月に複数のクラスターが発生した際、厚生労働省のクラスター対策班の派遣をいただき、検査の順序や施設内のゾーニングなどのご指示をいただくとともに、指示された全ての検査を本県で実施すれば、クラスター以外の検査が滞り、濃厚接触者の健康観察指示などに支障が出ることも想定されたことから、国（国立感染症研究所）において検査をいただいた
- ・ 今後想定される第2波、第3波に備える意味でも、局所的に急速に感染が拡大するような非常時においては、国が地方のPCR検査をサポートするといったシステムが必要
- ・ 報道によれば、農林水産省・文部科学省の試験研究機関では、PCR検査機器を保有し、適宜PCR検査を実施しているとのこと
- ・ 今後、国において、クラスター発生など一定の条件を設けた上で、こうした各省庁の検査機器の活用をルール化し、地方からの要請に応じて速やかに検査を行う支援体制も構築していただきたい